

# ビタミンA（レチノール）とNASH・・・NASH関連遺伝子との関係

肝臓川柳

ビタミンで NASHの病態 抑えられ～る  
(抑えられ～る…れ～る…れち～る…レチノール)

ビタミンA（レチノール）は脂溶性のビタミンで、視力や皮膚の機能を保つために重要なビタミンで、抗感染、抗酸化、さらに抗癌作用を示すことが知られていますが、肝臓はビタミンA代謝の中心臓器です。実は、ビタミンA（レチノール）は、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）と強い逆相関関係、すなわちビタミンA（レチノール）がNASHの病態進展の抑制に関わるようです。

以前ご紹介したNASHの進展に重要な遺伝子HSD17B13, PNPLA3の作用と関連すると最近のHSD17B13のレビューで報告されています。  
\*論文のFigureの一部を簡略に紹介しますと、PNPLA3は肝星細胞（肝臓の類洞腔に位置し、類洞内皮を長い突起で取り巻いている細胞）でレチノールの産生に関わり、遺伝子変異があると産生されなくなりますが、HSD17B13は肝細胞でレチノールの分解に関わり、遺伝子変異があると分解されなくなり、そのレチノールが肝細胞から肝星細胞に運ばれます。レチノールは肝臓の線維化、炎症、肝星細胞の活動性を抑制しますので、この遺伝子の働き（変異有無）によるレチノール代謝の変化がNASHの病態趨勢に関わる一因ではないかと言われています。



## これだけ覚えておいて損はない！今回のポイント

星細胞のレチノール（ビタミンA）は肝臓の線維化、炎症、肝星細胞の活動性を抑制します  
NASH関連遺伝子の働きによりレチノール代謝が変化する事から、これがNASHの病態に関わる一因ではないかと言われている。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院 肝疾患センター長 野ツ俣 和夫)